

対策計画書

届出者	住所	大阪府富田林市新堂2204	氏名	医療法人 宝生会 PL病院 理事長 橋本 清保
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		PL病院 病床数370 診療科24科 PL病院東京診療所 (PL東京健康管理センター) 人間ドック 診療科7科		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
平成	29年	4月	1日～平成32年3月31日 (3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		3,185 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)		3,419 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)		3,091 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		3,320 t-CO ₂	
選択		目標削減率 (排出量ベース)	0 %
		レ 目標削減率 (原単位ベース)	3 %
		目標削減率 (平準化補正ベース)	3 %

目標削減率に関する考え方

本計画書では患者・職員の在室延べ人数と延べ床面積とを乗じた値を母数として設定し、目標年度の31年度までに温室効果ガスを原単位ベースで3%の削減を達成できる様、対策計画を着実に実行していくこととします。

病院竣工12年目を迎え設備の劣化が進行しています。機器更新等の際には、省エネ性能等を考慮した対応を行います。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量			
目標年度における吸収量	0 t-CO ₂	吸収量による削減率	0.0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (在室延べ人数×延べ床面積)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネ法によるエネルギー統括管理者のもと、エネルギー企画推進者を委員長として、各部署代表者からなる省エネルギー推進委員会を毎月開催。省エネルギー・温暖化防止に向けての対策検討・立案・広報活動を継続して推進していきます。

対策計画書

	届出者	住所	大阪府茨木市島3-12-25	氏名	株式会社北部市場運送 代表取締役 黒田 敬弘
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業			
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		低温の物流センターを設け、全国の量販店及び食品メーカー等を対象に生鮮食品の運送や保管を専門とする物流業です。			

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
平成	29年	4月	1日～平成32年3月31日(3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		11,458 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量(平準化補正後)		11,736 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標(目標年度の対策後排出量)		11,100 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標(目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		11,390 t-CO ₂	
選択	レ	目標削減率(排出量ベース)	3.1%
		目標削減率(原単位ベース)	0%
		目標削減率(平準化補正ベース)	3%

目標削減率に関する考え方

高年式の車両を燃費の良い新型車両に随時入れ替えを行います。また、引き続きLED照明の導入を行う等の計画で毎年1%3年間において3%の削減を実現したいと考えています。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	0 t-CO ₂	吸収量による削減率	0.0%
-------------	---------------------	-----------	------

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース))を選択した場合のみ記入

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

定期的エコドライブの講習・研修等を通じて、温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制に努めております。

対策計画書

届出者	住所	大阪市北区梅田3丁目1-1 サウスゲートビルディング	氏名	株式会社ホテルグランヴィア大阪 代表取締役社長 河合 信夫
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル業、料理飲食業、食料品販売、両替業等		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
平成	29年	4月	1日～平成32年3月31日(3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		5,397 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量(平準化補正後)		5,754 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標(目標年度の対策後排出量)		5,236 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標(目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		5,582 t-CO ₂	
選択		目標削減率(排出量ベース)	0%
		レ 目標削減率(原単位ベース)	3%
		目標削減率(平準化補正ベース)	3%

目標削減率に関する考え方

本計画書では平米数を母数に排出原単位を設定し、目標年度である平成31年度において、温室効果ガスを3%(原単位ベース)削減する目標を掲げるとともに、総排出量についても削減に努めていきます。

当社はGOES(省エネルギー活動)を通じ対策を積極的に推進し、前年度比で二酸化炭素排出量の1%削減を目指します。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量			
目標年度における吸収量	0 t-CO ₂ 吸収量による削減率	0.0%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(延べ床面積)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

GOES（省エネルギー活動）にて四半期毎に検証し、上半期及び下期にて当社幹部へ報告を行いながら進捗状況等を確認し全社施策にて省エネルギー化に努めます。

対策計画書

届出者	住所	大阪府中央区谷町1丁目2番10号	氏名	株式会社 ホテル京阪 代表取締役社長 工藤 俊也
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、旅館業を営んでおり平成29年6月までは全国に8店舗を運営し、大阪府内では4店舗を運営していた、平成29年7月に新店舗を加えて、全国で9店舗・大阪府で5店舗の運営を行っている		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間	
平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日 (3年間)	
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量	10,770 t-CO ₂
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	11,503 t-CO ₂
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)	10,447 t-CO ₂
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))	11,024 t-CO ₂
選択	目標削減率 (排出量ベース) 0 %
レ	目標削減率 (原単位ベース) 3 %
	目標削減率 (平準化補正ベース) 4.2 %

目標削減率に関する考え方

温室効果ガス排出量は、お客様の宿泊人数により影響するため、本計画書では宿泊人員を母数に排出原単位を設定し、目標年度でもある平成31年度において大阪府内における温室効果ガスを原単位ベースで3%削減する目標を掲げるとともに、総排出量についても削減に努めていきます。

高効率照明球及び機器への更新を推進するとともに、会社の環境方針・環境マネジメントをより一層浸透させて、照明球の点灯時間・空調機器並びに熱源機器の運用を適確に行うことにより省エネルギーを目指す

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	0 t-CO ₂ 吸収量による削減率	0.0 %
-------------	-------------------------------	-------

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪府内の宿泊施設の宿泊人員)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・全社的に温暖化対策に取り組んで環境マネジメントシステムを導入運用しており、全店で3か月に一度温暖化防止に関する報告会を実施する等しており、大阪府内においても計画的に5店舗にて環境マネジメントを積極的に運用することにより、体制を継続してまいります。

対策計画書

届出者	住所	大阪府大阪市北区南扇町7-31 ホンダ大阪ビル5F	氏名	株式会社ホンダカーズ大阪 代表取締役社長 堀内 俊樹
特定事業者の主たる業種		60 その他の小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		自動車販売及び修理		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間			
平成	29年	4月	1日～平成32年3月31日(3年間)
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量		4,203 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量(平準化補正後)		4,856 t-CO ₂	
(3) 温室効果ガスの削減目標(目標年度の対策後排出量)		4,080 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標(目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		4,700 t-CO ₂	
選択	レ	目標削減率(排出量ベース)	3%
		目標削減率(原単位ベース)	0%
		目標削減率(平準化補正ベース)	3.3%

<p>目標削減率に関する考え方</p> <p>全ての事業所で、冷房温度28℃、暖房温度20℃迎行</p> <p>全ての事業所で、外灯・看板照明の点灯時間・消灯時間の社内基準設置(タイマー設定基準)</p>		
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		
目標年度における吸収量	0 t-CO ₂ 吸収量による削減率	0.0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー量の報告（毎月入力）を基に、前年度比で悪化している事業所には指導を行う

対 策 計 画 書

届出者	住所	大阪府和泉市肥子町 2-8-56	氏名	株式会社 ホンダ泉州販売 代表取締役 北野 好美
特定事業者の主たる業種		59機械器具小売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・自動車及びその部品、用品、付属品の販売 ・自動車及びその部品の修理・再生並びに加工 ・自動車の賃貸業 ・中古自動車類及び同部品の売買 ・生命保険の募集に関する業務、損害保険代理業 		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1)計画期間			
平成	29年	4月	1日～平成32年3月31日(3年間)
(2)基準年度における温室効果ガス総排出量		1,306 t-CO ₂	
基準年度における温室効果ガス総排出量(平準化補正後)		1,540 t-CO ₂	
(3)温室効果ガスの削減目標(目標年度の対策後排出量)		1,267 t-CO ₂	
温室効果ガスの削減目標(目標年度の対策後排出量(平準化補正後))		1,494 t-CO ₂	
	選択	レ	目標削減率(排出量ベース) 3%
			目標削減率(原単位ベース) 0%
			目標削減率(平準化補正ベース) 3%

目標削減率に関する考え方

環境に配慮した商品(低燃費車・低公害・ハイブリッド車・水素自動車)の販売及び定期点検整備の促進を図る。全社員でリサイクル、節電、アイドリングストップの徹底に取り組みます。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	0 t-CO ₂	吸収量による削減率	0.0%
-------------	---------------------	-----------	------

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース))を選択した場合のみ記入
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

--

対策計画書

届出者	住所	大阪府高石市羽衣3丁目1-72	氏名	ほんみち 代表役員 武村 譲暉
特定事業者の主たる業種		94宗教		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当法人は、天理教祖を通じて下された天啓録につき、教祖の後継者甘露台がこれを解明し体得せられた「ほんみち」の教義をひろめ、儀式行事を行い、信者を強化育成し、伝導所を包括し、その他この教派の目的を達成するための業務を行うことを目的とする。		

◎ 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標

(1) 計画期間	
平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日 (3年間)	
(2) 基準年度における温室効果ガス総排出量	3,240 t-CO ₂
基準年度における温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	3,431 t-CO ₂
(3) 温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量)	3,150 t-CO ₂
温室効果ガスの削減目標 (目標年度の対策後排出量(平準化補正後))	3,320 t-CO ₂
選択	目標削減率 (排出量ベース) 0 %
レ	目標削減率 (原単位ベース) 3.2 %
	目標削減率 (平準化補正ベース) 3.7 %

目標削減率に関する考え方

ほんみちの施設における建築物の建設・営繕・維持管理等の運営は、全て宗教活動の一環として、信徒の手により主に、一定の資格を有した「勤務者」が主体となり非営利目的で自主運営いたしております。大正2年立教以来、今日まで、教えに「天の冥利を恐れ、始末儉約して、すたるものをすたらさぬ様、無駄の費えを惜しむ心は理に叶う」とあり、その実践に日夜傾注しており、社会一般と比較にならない省エネを推進しております。修業の名目で信徒の空間には空調設備は設けぬ方針であり、一方、16年前よりソーラー発電を導入するな

ど、エネルギーの節約には積極的に取り組んで参りました。自動車分野では大阪府以下に4出張所があり、信徒や物資の輸送、また布教活動の移動手段として自動車を利用しており、エコ運転の推進で、燃料の削減が期待できます。しかし、世界助けを標榜する教団として人を助けるための布教活動の為、自動車の使用などのエネルギーの消費には惜しみなく使わせて戴くという考え方があります。今後、施設の拡充も計画されており、原単位ベースで建物の延べ床面積を採用します。

植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量

目標年度における吸収量	0 t-CO ₂ 吸収量による削減率	0.0 %
-------------	-------------------------------	-------

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (建物の延床面積)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー管理委員会を推進役として、全国のほんみち施設における省エネ活動と温暖化ガス排出抑制に取り組みます。

エネルギー管理委員会において、既設建物の現状調査、把握と勤務者への周知に努め、現状建物の建築設備の運用変更、老朽化設備の更新、効率の改善を進めます。

電気の需要の平準化については、太陽光発電などの設置を検討し、再生可能エネルギーへの切り替えを随時、計画していきます。